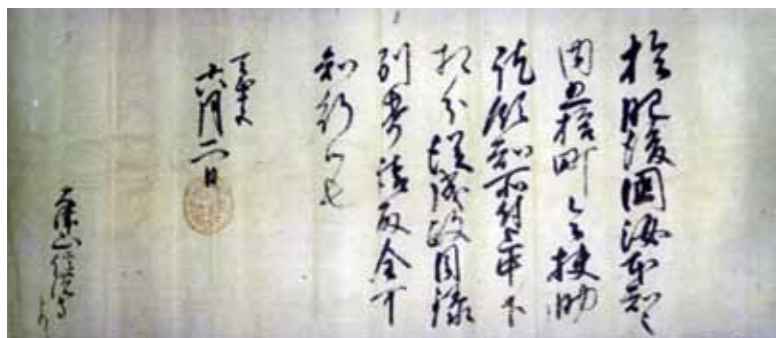


柳川大津山氏の「先祖書」

市史編集顧問 大城美知信



大津山信濃守宛「豊臣秀吉朱印状」(大津山道治氏所蔵「大津山文書」)



大津山家稜の墓(熊本県玉名郡和水町西吉地 浄満院跡)。墓塔部分が倒れたため傍らに移設してある。文化15年正月建立とある

柳川藩の御家中に大津山氏がいる。言うまでもなく中世南関の領主大津山氏の末裔であるが、初めは三池氏を名乗っていた。その「先祖書」(享保8年藩士系図)によると、先祖大津山信濃守家直は、豊臣秀吉九州下向の折、新知150町(実は50町)の御朱印地を拝領していたが、その後没落して浪人し、やむなく妻と幼な子を妻の実家である柳川の三池上総介鎮実の許に預けた。やがて幼な子は成長し、縁あって良清様(閻千代)より格別の御厚恩を蒙り、宗茂公のお目見得にも与った上、一字を賜って小次郎虎経と名乗るが、母方の姓を用いて三池龍介と改めたという。その子吉兵衛(経鎮)は一時関姓を称したこともあるが、大津山姓に復するのは文化9(1812)年頃の柳川藩立花家分限帳。

大津山家には秀吉の朱印状はじめ宗茂・忠茂の書状その他の古文書類が多数相伝されており、これらの資料を基に作成されて藩庁に提出された「先祖書」は、客観的で核心をついたものとなっている。もっとも「先祖書」の作成に当たっては、家蔵の古文書の他に南関の親戚筋に頼んで大津山家の由緒その他について調べてもらったようであるが、返答の中身は概ね井澤長秀の「南関紀聞」からの情報であった(大津山文書「津留勘四郎書状」)。実は、『南関紀聞』では柳川大津山氏の初代三池龍介を、嫡流の大津山家稜(河内守)の子とする「土俗の言」を紹介しているのだが、「先祖書」はその事には全く捕らわ

れてはいない。そもそも秀吉の九州平定期において、大津山氏の当主が家稜の弟信濃守家直であったことは、秀吉の朱印状が何よりもその証である。従って、「先祖書」の作成に際しては、この朱印状が、いわば我が家の由緒に対する確信ともなっていたのではないか。

ところで、同家に残る「先祖忌日戒名帳」(慶応4年改め)の冒頭には「大先祖、大津山河内守藤原家稜朝臣」と大書され、戒名が□雲院殿要岳玄津大居士、命日が天正16年7月23日とされている。柳川大津山家には「先祖書」とは別に家稜を祖とする伝承があるのだろうか。『南関紀聞』には、家稜は天正15年の肥後国衆一揆で佐々成政の騙し討ちに遭い、吉地村(現・熊本県玉名郡和水町)の浄満院に誘殺されたとあり、同院跡には家稜の墓も建てられている。しかし彼の最期については、秀吉に抗って降伏したが許されず、切腹を命ぜられたという佐賀藩『直茂公譜』の説など異説もあり、真相ははまだ謎に包まれている。

【お詫びと訂正】 広報やながわ7月1日号新市史抄片「柳川生まれの水彩・パステル画家 富安道義」の本文中に誤りがありました。「別府市春木町に転居」とあるのは「別府市春水町に転居」の誤りでした。小野弘さん(別府市)からご指摘をいただきました。お詫びして訂正します。

ガンバル 我ら 地域おこし協力隊

No.49

大都市圏から地方へ人の流れを作り、将来の定住を目指しながら、地方の活性化への貢献を目指すプログラム「地域おこし協力隊」。彼らの日々の活動を紹介します。
【問】市観光課観光地域づくり係 (☎77・8176)



レンコン畑に花が咲き感動



5月にリーフレタスを収穫



枝豆の苗を定植した4月

皆さん、こんにちは。地域おこし協力隊の長谷川太郎です。私は去年の白秋祭水上パレードや雛巡り舟での舟の運航、職員向け船頭研修の講師など、川下りの仕事を中心に行っていました。農業関係の仕事でも、私は早くから両開地区へと足を運び、リーフレタスの収穫にいそんでいました。というのも、地域おこし協力隊に赴任してからはや1年が過ぎ、2年目に突入して、任期終了後の準備を進めていかなければならないからです。そこで、私は農業を生業とした定住に向けて動き始めました。去年に引き続きブドウ栽培に携わる一方、赴任直後より農業関係の仕事でお世話になって、猿渡昭光さんにご協力いただき、リーフレタスと枝豆の栽培に取りかかりました。その他にも、レンコンや筑後地域の伝統的作物であるヒシ栽培に取り組んでいます。土作りから播種、定植を経て収穫まで作物を一から栽培するのは初めてで、毎日の作業が新鮮でした。世間がゴールデンウィークの頃、3月に定植したリーフレタスの収穫を行いました。切り取ったレタスを段ボールに詰め込み、それを農協の集荷場へと運んでいきます。自分で作った作物が流通を経てスーパーなどに並び、最後は食卓に並ぶことを思うと、農業という仕事のやりがいを見つけられた気がしました。

しかし、その一方で農業という仕事も思っていたより大変であるということも学びました。常に自然との戦いであるのが農業です。今年の梅雨終わりに西日本を豪雨が襲ったのは記憶に新しいと思います。4月に定植した枝豆は今回の豪雨で大きな被害を受け、ほぼ収穫の無いまま終わってしまいました。それでも、私は就農での柳川定住を目指し、一層農業の勉強をしていこうと強く思っています。地域おこし協力隊として観光課に配属されている以上、観光と農業を織り交ぜた事業展開も将来的には行ってみたいと考えています。残り1年半、残された時間を有意義に活用し日々チャレンジして行く所存です。



長谷川 太郎 (25歳)
【プロフィール】 京都府京都市出身。高校・大学と農学を専攻。歴史に興味があり、日本城郭検定3級資格を持つ。立花宗茂の大ファン。平成29年4月から観光課に所属

農業はつらいよ、だけど魅力的！